



J P - U S O P 3 の状況について

平成28年6月2日(木)

文部科学省
研究開発局

1. ISSに係る新たな日米協力関係の構築



【日米合意文書に関する署名式の実施】

昨年12月22日、島尻宇宙政策担当大臣・岸田外務大臣及び馳文部科学大臣と、ケネディ駐日米国大使との間で我が国のISSの2021～2024年の運用延長に関し、新たな日米協力の枠組として、「日米オープン・プラットフォーム・パートナーシップ・プログラム(JP-US OP3)」を構築することを主たる内容とする文書に署名。



【「JP - US OP3」の概要】

1. 日米協力を強化する以下のもの等によるISS運用の新たなイニシアティブの進展

- (a) ISS(きぼう)船内・船外での実験設備・機器(実験データを含む)の相互活用、共同研究等の促進
- (b) 新しい宇宙技術の開発に焦点を当てた運用。これには、アメリカ合衆国政府が有用だと認める場合には、ISSの共通システム運用経費(CSOC)の相殺のための将来的な調整の一部として相互に有用な方法で小型回収カプセルを使用する可能性について議論することを含む。

2. ISS資源を活用したアジア太平洋地域の宇宙途上国との協力の増進

3. ISSの新たな活用の推進

- (a) 日本の非機能物体捕捉技術実証の支援等のISSの技術実証プラットフォームとしての活用
- (b) 宇宙ステーション補給機(HTV)やHTV-Xの運用機会の活用

4. 効果的・効率的な宇宙関連技術の活用の促進



- 平成28年1月

- 文科省 / JAXA - NASAにおいて、JP - US OP3の具体的な協力案件の検討に関する協力を確認。

- 平成28年2月

- JAXA - NASAにおいて、主に以下の協力分野から議論を開始。
 - 「きぼう」船外利用(小型衛星放出、観測装置など)
 - 生命科学研究(水棲生物飼育装置、小動物(マウス)飼育装置、蛍光顕微鏡の利用など)
 - 材料研究(静電浮遊炉の利用など)
 - タンパク質結晶成長

など



- 平成28年3月、4月

- フィリピン国産初の50kg級超小型衛星 DIWATA - 1をNASAに引き渡し、
米国補給船「シグナス」に搭載し、打ち上げ。

フィリピン科学技術省次官が射場を訪れ、打ち上げを視察。

DIWATA - 1: フィリピン国産開発初の超小型衛星(50kg級)

天然資源モニタリング及び災害監視機能実証を目的としたもの

- DIWATA - 1を「きぼう」日本実験棟から放出。

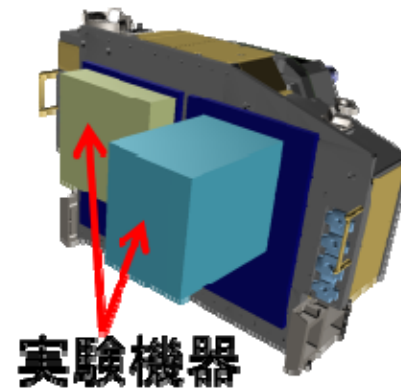
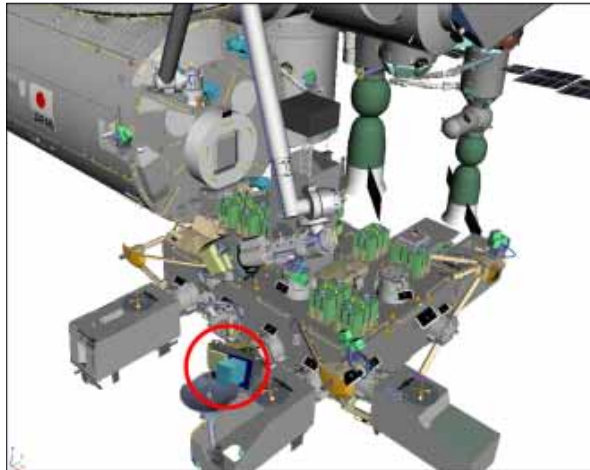
フィリピン科学技術省次官が来日し、視察。





● その他

- JAXA、NASAが協力してISS利用に関するワークショップ等の開催を検討中。
- 宇宙機器の技術実証等に活用できる中型ミッション用の船外プラットフォームの運用を開始



エアロックを通じ、簡単に機器を船外に設置・回収。頻繁に入れ替え可能

- 実験機器の交換が容易(年2回程度)
- 打上げ条件緩和により、開発期間が短縮
- 観測センサや様々な宇宙機器の実証試験に活用(実利用・製品化の前段階利用)